

大学卒業生の母校へのイメージ調査 ——テキストマイニングと数量化分析を用いて——

A survey of impression of an alma mater amongst its graduates : Using text mining and quantification analysis

安田 恭子*, 若杉 里実**, 榊原 國城***

Yasuko YASUDA, Satomi WAKASUGI and Kuniki SAKAKIBARA

要 旨

母校の卒業生で良かったこと（以下、メリット）および母校の伝統について自由記述回答による調査を行った。設問別にキーワード抽出を行った結果、度数5以上のキーワード数は、メリットが47個、伝統が40個であった。良い（メリット）と共起したキーワードは、知名度、友人との出会い・絆・交流、就職活動・仕事（アルバイト含む）での利点、教員との出会い・尊敬・交流、講義内容などであり、伝統と共起したキーワードは、知名度、拡張・発展、歴史・沿革、同窓会・同窓生、活躍・社会的実績などであった。さらに、抽出されたキーワードを用いてカテゴリカル主成分分析を行った結果、メリットについては、評判、伝統、校風、教学態勢などからなる8つのクラスターで構成され、伝統については、校訓・伝統精神、教育方針、知名度などからなる7つのクラスターで構成されることが分かった。

キーワード：卒業生 母校 伝統 メリット テキストマイニング

I. はじめに

「大学全入」時代を迎えた我が国の2011年度大学・短期大学への現役進学率は、54.2%であった（文部科学省、2011）。進学率増大の背後には、大学を取り巻く環境の急激な変動がある。これらの変動として、大学を取り巻く文化、経済、雇用システム、政策、行財政、経営、教員、教育内容の変容・高度化・複雑化、高等教育のユニバーサル化・グローバル化、情報メディア革新、学生の学習意欲の劣化など多様な問題が指摘される（田中、2011）。すなわち、大学を取り巻く環境の中には、量的かつ単純な問題だけではなく、質的かつ複雑な問題がそこにはある。これらの問題について、田中（2011）は、戦後の経済戦の在り方が変化し、成長から停滞的な成熟社会へと急速に変貌したために、現在の大学は長期的構造的文化的危機にあると考察している。また、その結果として、学力不振、不登校、いじめなどの機能障害が生じ、内的駆動力の消失、全存在的な教授・学習からの撤退など、大学教育における長期的構造的文化的危機による具体的な問題点が指摘されている。

さまざまな問題点が指摘される我が国の教育事情ではあるが、1991年の大学設置基準の“大綱化”と共に、

* 愛知淑徳大学人間情報学部 yasudays@asu.aasa.ac.jp

** 岐阜大学医学部

*** 愛知淑徳大学交流文化学部

大学には“自己点検・自己評価”が義務づけられた（文部科学省，1991）。また、大学の授業改善とアカウンタビリティの一手段として、学生による授業評価も実施されている（大塚，2004）。ところが、学生による授業評価には、ある授業に対する学生の評価が高いということと、その授業で学生が何を学び、高い教育効果を受け取ったかどうかは基本的に別であるという問題が指摘される（吉本，2007）。このような状況にもかかわらず、学生による授業評価の結果は第三者評価機関による認証評価においても参考とされ（大塚，2004）、問題が散見される。

現在は、FD（Faculty development）も2008年から義務化され、各大学において「教育の質保証」のためのさまざまな方策が試みられている。ところが、FDには、無意味感、徒労感、忌避感が強く、特殊な活動様式が形式化形骸化された所産、日常の教育活動とは別もののイベントとして捉えられることが少なくないという問題がある（田中，2011）。

社会が大学卒業生に期待する能力も変化している。厚生労働省は就職基礎能力を、経済産業省は社会人基礎能力を、文部科学省は学士力を大学卒業生に求めている。ところが、これらの期待される能力を習得させるのに効果的な大学教育については、各大学がそれぞれに模索中であり、社会の要請に応える教育態勢が十分に整っているとは言い難い現状である。また、これらの教育効果を測定するための尺度も開発途上段階であり、教育の成果は卒業生のキャリアに体现されるはずであるという指摘もある（吉本，2007、榊原・安田・若杉，印刷中）。

筆者らは、これまでの一連の研究において大学生の学生生活満足感および教育・指導体制が及ぼす学生生活満足感への影響について検討してきた。その結果、大学生の学生生活満足感は、学部に対する満足感との関係性が強く、学問への期待が大きな影響力を持っていることが示唆された（安田・若杉・榊原，2007）。さらに、「授業内容」「学修態勢」「授業選択自由度」の3因子が、大学生生活の満足度に強い影響を与える教育・指導体制であることも示された（安田・若杉・榊原，2009）。また、卒業生のキャリア（仕事への取り組み状況）と在学中の教育について振り返る観点から教育効果を検討した結果、キャリアの初期には各種スキルに関連した教育に効果がある可能性が示された（榊原ら，印刷中）。

そこで本研究では、「教育の質保証」を念頭に置き、学生による授業評価で問題とされるような学生の個人的な満足、つまり、満足度は学生の成長と対応しているのかが不明であるために、社会の要請に的確に応える大学教育とは何かを探る目的で、卒業生を対象に調査を実施する。具体的には、母校の卒業生で良かったこと（メリット）および母校の伝統について調査し、調査結果に依拠して、建学の精神に基づいた、自律的な私学教育の教育改善の方向性、在り方を探求することを目的とする。

II. 方法

1. 調査の概要

本研究で用いた質問紙調査票は全41項目からなる「愛知淑徳大学卒業生のキャリア発達に関する調査」であった。そのうち、本研究で分析された質問項目はQ32『愛知淑徳大学の卒業生で良かったと思うことがあれば、それはどのようなことですか?』、Q33『「愛知淑徳大学の伝統」を感じるもの（こと）があれば、それはどのようなもの（こと）ですか?』の2項目である。いずれも自由記述法にて回答を得た。

2. 調査対象者

2009年度までに愛知淑徳大学同窓会に入会した会員（2万名超）の中から5143名を出身学部、卒業年度を考慮したランダムサンプリングによって被調査者を選出した。アンケート回収数は988通であり、回収率は19.2%であった。回答者の平均年齢は、33.39歳（SD=8.99）であった（女性924名、男性56名、不明8名）。

3. 調査方法

調査対象者へ調査票を郵便にて送付、回収した。

4. 調査期間

2010年6月～2010年8月であった。

5. 解析方針

自由記述の解析には IBM SPSS の Text Analysis for Surveys3.0.4 を用いた。設問中で用いられた単語および設問の意図に沿わないもの（たとえば、メリットについてはネガティブな評価は除外、伝統では分からないおよび不満などは除外）を解析対象外として、キーワードを抽出した。また、良いと“よい”のような表記揺れ、誇りと自信のような同義語および話題、会話、ネタなどの類義語は同一の語に置換した。得られたキーワードのうち頻度5以上（閾値＝5以上）を対象に、カテゴリカル主成分分析を実施した。また、カテゴリカル主成分分析で得られたカテゴリ・スコアを用いてクラスター分析（抽出法に Ward 法、測定方法に平方ユークリッド距離による）を実施し、キーワード間の関係性を客観的に判別した。さらに、「良い（メリット）」「伝統」のそれぞれについて共起関係を調べるために、別途、言語学的手法に基づくカテゴリの作成を実行し、カテゴリカル web（有向レイアウト）で図示した。

Ⅲ. 結果

1. 愛知淑徳大学の卒業生で良かったと思うこと（メリット）

メリットは、988 通のうち、無記入 288 件、ない 59 件を除く、641 件（64.9%）を解析した。抽出されたキーワード数は 49 個で、閾値が5以上のキーワード数は 47 個であった。上位 10 位までのキーワードを Table1 に示し、知名度（234 件）、友人との出会い・絆・交流（208 件）、就職活動・仕事（アルバイト含）での利点（100）の順に回答数が多いことが分かった。その後、閾値 5 以上のキーワードを対象にカテゴリカル主成分分析を実施し、分析の結果得られたカテゴリ・スコアを Table2 に示した。

カテゴリ・スコアを用いてクラスター分析をした結果、メリットは 8 つのクラスターで構成されることが分かった。Figure1 は、カテゴリ・スコアをプロットし、次元 I を全体的・個人的、次元 II を進展・発展—継承と解釈した。次に、クラスター分析の結果に基づいて関係性が強いキーワードを線で囲い、クラスターの解釈をした。クラスター 1 は、楽しい、学生時代の生活、講義内容、教員との出会い・尊敬・交流、友人との出会い・絆・交流、充実・恵まれたで構成された。これらは、日常的な人間関係に関与する内容のため“コミュニケーション”と名付けた。クラスター 2 は、職員との出会い・交流、ゼミ、学び・知識の活用、ゆとり、施設・環境、自由で構成された。これらは、学生の学修環境に資する内容を示すため“教学態勢”と名付けた。クラスター 3 は、勤勉・努力、学部・学科、海外研修・留学、サポート制度、おだやかな空間・幸せな時間、女性らしさ、同じ目標・興味、自己の確立、行動・発言力、温かさ・優しさ、人柄、資格取得、品格・礼儀で構成さ

Table1 閾値 5 以上の設問別キーワード数（上位 10 位）

良い（メリット）		伝統	
キーワード	度数	キーワード	度数
知名度	234	知名度	122
友人との出会い・絆・交流	208	同窓会・同窓生	92
就職活動・仕事（アルバイト含）での利点	100	品格・しなやかさ	47
教員との出会い・尊敬・交流	89	女子大・女性教育・女性優勢	46
講義内容	89	好評価・評判・期待	28
地元	79	拡張・発展	25
学生時代の生活	77	年配	24
同窓会（先輩・後輩）	63	活躍・社会的実績	22
誇る・自信	51	たくさん・多い	22
楽しい	49	歴史・沿革	21

Table 2 設問別カテゴリ・スコア

良い (メリット)			伝統		
キーワード	I	II	キーワード	I	II
知名度	-.51	-.17	おだやかさ	.53	-.29
友人との出会い・絆・交流	.48	.09	人柄・態度・姿勢	.49	-.16
楽しい	.45	-.09	雰囲気・校風	.43	-.29
学生時代の生活	.45	-.09	一生懸命	.43	-.36
教員との出会い・尊敬・交流	.42	.12	前向き・あきらめない	.42	-.31
充実・恵まれた	.41	.05	努力・勤勉	.41	-.04
講義内容	.41	-.11	才色兼備・良妻賢母・清楚	.40	.03
地元	-.35	-.22	品格・しなやかさ	.37	.13
ゆとり	.32	.00	思いやり・優しさ・感謝	.37	-.17
施設・環境	.32	.01	真面目・堅実さ	.32	-.01
ゼミ	.26	.01	自由・のびのび	.28	-.25
誇る・自信	-.24	.19	大学よりも中学・高校	.27	-.08
自由	.23	-.09	女子大・女性教育・女性優勢	.25	.14
職員との出会い・交流	.23	.06	質実剛健・質素	.23	-.09
レベルの高い	-.23	-.03	教員	.20	.00
女子大	-.22	-.13	淑徳魂・愛校心	.17	.01
信頼	-.20	-.18	教養・常識的	-.23	-.05
学び・知識の活用	.19	.01	クラブ活動・部活動	.21	-.01
伝統	-.18	-.11	嬉しい・楽しい	.14	.03
学部・学科	.16	-.05	知名度	.13	.56
お嬢様・裕福	-.16	-.13	同窓会・同窓生	.41	.54
心の支え	.15	.12	好評価・評判・期待	.22	.43
宝物・財産	.15	.13	活躍・社会的実績	.30	.36
勤勉・努力	.15	-.09	年配	.04	.35
就職活動・仕事(アルバイト含む)での利点	-.15	-.01	たくさん・多い	.23	.32
海外研修・留学	.13	-.05	誇り・自信	.16	.28
同じ目標・興味	.12	-.03	信頼	.21	.26
サポート制度	.12	-.06	つながり・継承	.14	.24
褒められる	-.12	-.03	歴史・沿革	.08	.20
おだやかな空間・幸せな時間	.11	-.07	話題	.18	.19
親近感	.10	.13	個の確立	.17	-.19
女性らしさ	.10	-.06	お嬢様・裕福な	.09	.15
活躍	-.10	.76	先駆的・チャレンジ・行動力	.05	-.10
同窓会(先輩・後輩)	-.07	.68	拡張・発展	.03	-.10
拡張・発展・先見性	-.22	.50	中学・高校・大学	.09	.09
意欲	.06	.33	大学祭	.03	-.07
嬉しい	-.12	.26	教育・授業内容・ゼミ	.03	-.06
存続	-.08	.24	キャンパス環境(校舎・施設)	-.03	-.05
成長	.16	.20	存続	.01	.02
強いつながり	.14	.19	理念	.01	-.02
品格・礼儀	-.02	-.14			
会話・話題	-.08	.12			
人柄	.07	-.08			
資格取得	.03	-.07			
温かさ・優しさ	.04	.01			
自己の確立・行動・発言力	.04	-.02			
四大卒業	-.04	.02			

れた。これらは、当該大学の学風を示す内容のため“校風”と名付けた。クラスター4は、強いつながり、成長、宝物・財産、心の支え、親近感、意欲で構成された。これらは、精神面での価値を示す内容のため“マインド”と名付けた。クラスター5は、四大卒業、会話・話題、存続、嬉しい、誇る・自信で構成された。これらは、当該大学における理念に基づいて継承されている内容を示すため“伝統”と名付けた。クラスター6は、知名度、地元で構成され、“評判”と名付けた。クラスター7は、お嬢様・裕福、伝統、女子大、信頼、就職活動・仕事（アルバイト含）での利点、褒められる、レベルの高いで構成された。これらは、当該大学・学園で受け継がれている学園全体に対する印象を示す内容のため“学園イメージ”と名付けた。クラスター8は、同窓会（先輩・後輩）、活躍、拡張・発展・先見性で構成された。これらは、当該大学の大学理念および実現テーマの結果を示す内容のため“大学理念・実現テーマ”と名付けた。

良い（メリット）と共起するキーワードの検討のために、Q32（愛知淑徳大学の卒業生で良かったと思うこと）の自由記述を用いて、言語学的手法に基づくカテゴリの作成を実行した。その結果、良い（メリット）の回答件数が94件であることが分かった。Figure2には、12以上の閾値を持つキーワードと良い（メリット）の共起関係を有向レイアウトによるカテゴリカル Web グラフで示した。カテゴリ Web グラフからは、良い（メ

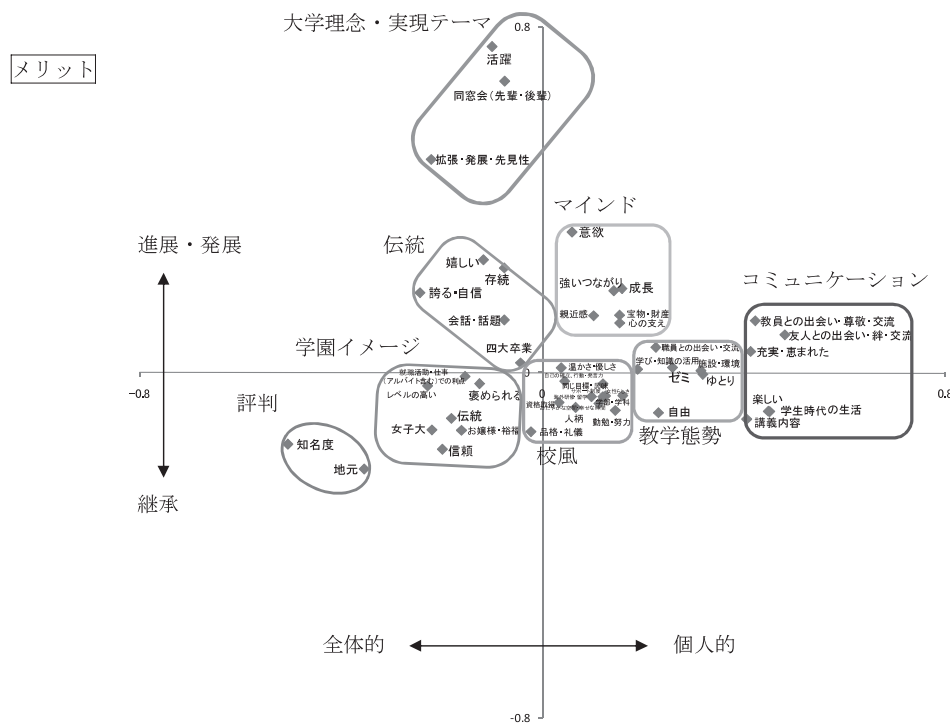


Figure1 メリット（閾値5以上）のキーワード間関係

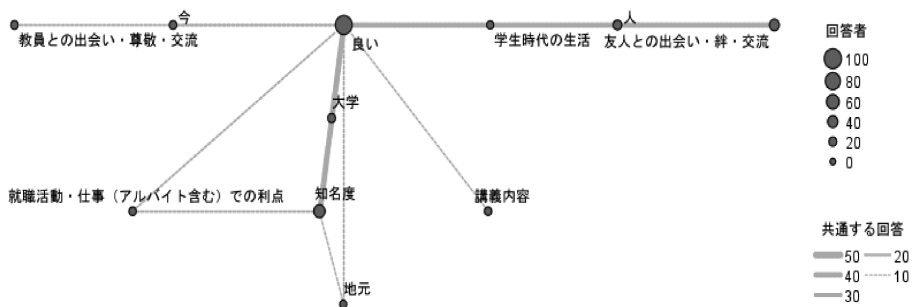


Figure2 “良い”（メリット）のカテゴリカル web グラフ

リット)は、今(現在)にも通じる教員との出会い・尊敬・交流の軸、学生時代の生活および友人との出会い・絆・交流に関する軸、講義内容に関する軸、知名度、地元、就職活動・仕事(アルバイト含)での利点に関する軸の4つの側面があることが分かった。

2. 愛知淑徳大学の伝統を感じること

伝統は、988通のうち、無記入399件、ない・分からない594件を除く、394件(39.9%)を解析した。抽出されたキーワード数は43個で、閾値が5以上のキーワード数は40個であった。上位10位までのキーワードをTable1に示し、知名度(122件)、同窓会・同窓生(92件)、品格・しなやかさ(47件)、女子大・女子教育・女性優勢(46件)の順に回答数が多いことが分かった。その後、閾値5以上のキーワードを対象にカテゴリカル主成分分析を実施し、分析の結果得られたカテゴリ・スコアをTable2に示した。カテゴリ・スコアを用いたクラスター分析の結果からは、伝統は7つのクラスターで構成されることが分かった。

Figure3は、カテゴリ・スコアをプロットし、次元Iを組織的気風—個人的気風、次元IIを学園の伝統—学生の伝統の伝統として解釈した。クラスター分析の結果を基に関係性が強いキーワードを線で囲い、クラスターの解釈をした。クラスター1は、クラブ活動・部活動、教員、嬉しい・楽しい、淑徳魂・愛校心、大学よりも中学・高校、質実剛健・質素、教養・常識的、個の確立で構成された。これらは、淑徳魂、質実剛健などのキーワードに代表されるような当該大学における校訓や伝統精神に関連する内容を示すため“校訓・伝統精神”と名付けた。クラスター2は、才色兼備・良妻賢母・清楚、努力・勤勉、真面目・堅実さ、品格・しなやかさで構成された。これらは、当該大学の伝統精神から校訓へと通じる教育方針に関する内容を示すため“教育方針”と名付けた。クラスター3は、教育・授業内容・ゼミ、大学祭、先駆的・チャレンジ・行動力、拡張・発展、理念、存続、キャンパス環境(校舎・施設)で構成された。これらは、教育方針に限らず、理念および当該大学の在り方に関する内容を含むため“大学の方針”と名付けた。クラスター4は、思いやり・優しさ・感謝、自由・のびのび、前向き・あきらめない、雰囲気・校風、一生懸命、人柄・態度・姿勢、おだやかさで構成され

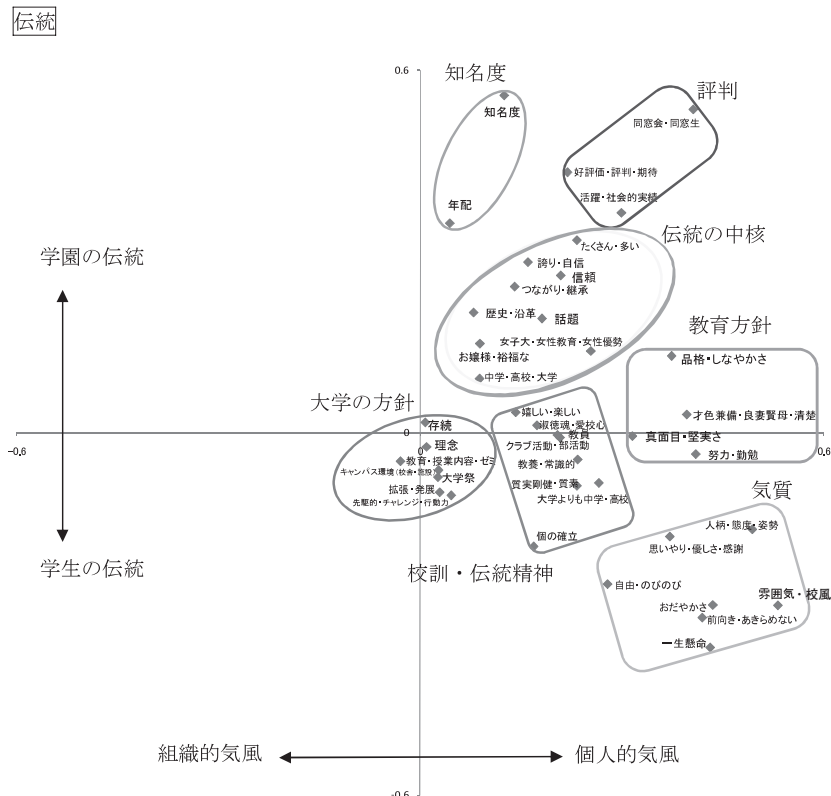


Figure3 伝統(閾値5以上)のキーワード間関係

た。これらは、当該大学に在籍した学生に関する内容を示すため“気質”と名付けた。クラスター5は、歴史・沿革、お嬢様・裕福な、中学・高校・大学、女子大・女性教育・女性優勢、話題、誇り・自信、つながり・継承、信頼、たくさん・多いで構成された。これらは、当該大学の伝統の中核的存在を担う内容を示すため“伝統の中核”と命名した。クラスター6は、知名度、年配で構成され、当該大学周辺でのみ当てはまる特徴的な内容を示すため“知名度”と名付けた。クラスター7は、好評価・評判・期待、活躍・社会的実績、同窓会・同窓生で構成された。これらは、当該大学出身者への社会的印象などに関する内容を示すため“評判”と名付けた。

伝統と共起するキーワードの検討のために、Q33（愛知淑徳大学の伝統を感じること）の自由記述を用いて、言語学的手法に基づくカテゴリの作成を実行した。その結果、伝統の回答件数は47件であることが分かった。Figure4には、5以上の閾値を持つキーワードと伝統の共起関係を有向レイアウトによるカテゴリカル Web グラフで示した。伝統は、大学、活躍・社会的実績、歴史・沿革、淑徳、知名度、同窓会・同窓生に至る直線のほぼ中心に位置し、拡張・発展は別軸を形成していることが示された。

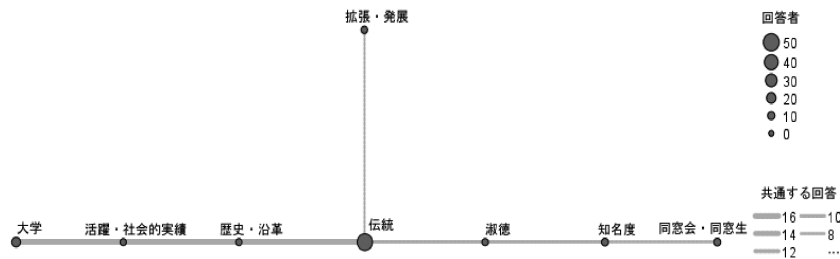


Figure4 “伝統” のカテゴリカル web グラフ

IV. 考察

卒業生がどのような側面に、母校の卒業生で良かったこと（メリット）を感じるのか、あるいは母校の伝統をどのように感じているのかについて、自由記述回答を用いたキーワード抽出を試みた。その結果、Table1に示すように、どちらの設問においても最も回答件数の多いキーワードは“知名度”であった。メリットは、学生時代からの友人および教員との人間関係、講義内容、現在にもつながる誇りや自信、同窓会（先輩・後輩）といった側面に当該大学の良さを強く感じていることが推測された。伝統については、同窓会・同窓生の活躍などを通して、そのつながりを強く感じている様子が窺われた。

次に、抽出されたキーワードを用いてカテゴリカル主成分分析やクラスター分析を試みた結果から、メリットは、“コミュニケーション”“教学態勢”“校風”“マインド”“大学理念・実現テーマ”“評判”“学園イメージ”“伝統”の8つのクラスターで構成されることが示された。これらの結果は、安田ら（2007、2009）で得られた結果と類似の構造をしていた。たとえば、教学態勢は、安田ら（2009）の学修態勢や安田ら（2007）のサポート制度および学食・購買からなる便益に共通する構成要素がみられた。また、コミュニケーションおよび教学態勢は、安田ら（2007）で想定された概念であるソフト面とハード面にそれぞれ対応し、大学生生活の満足度に強く影響した授業内容、学修態勢、授業選択自由度に関連する内容を含んでいた。さらにこれら2つのクラスターは、大学生生活の満足度は自由・学生・講義内容に影響され、所属学部への満足は講義内容、サポート制度、友人に影響されることを示した安田ら（2007）の内容を含み、大学生生活の満足感と関連するクラスターとして解釈可能であると考察される。したがって、満足度は良かったこと（メリット）の一部を示すものであることが示唆され、メリットは、進展・発展—継承の次元および全体的—個人的の次元で表現される空間であり、満足度は進展・発展と継承の間で個人的な空間において展開される概念であることが示唆された。また、伝統については、“校訓・伝統精神”“教育方針”“大学の方針”“気質”“伝統の中核”“知名度”“評判”の7つのク

ラスターで構成されることが示された。さらに、伝統は、学園の伝統と学生の伝統および組織的気風と個人的気風の次元で表現される空間であり、とくに個人的領域において学園の伝統と学生の伝統が展開される特性を示す結果が得られた。これらの結果は、伝統が組織的というよりは、個人を通じて形成・継承されるものであるということを示唆している可能性がある。各クラスターを構成しているキーワードの中には校訓・伝統精神、教育理念などに基づく個人的特性に関する内容が多く示され、伝統というものを考察する際に、こうした特性を備えた個人が大切であることが推察される。

続いて、関連性の深いキーワードを探る目的で、良い（メリット）および伝統のそれぞれについて、言語学的手法に基づくカテゴリの作成を実行した。その結果を用いて、メリットおよび伝統のそれぞれについてカテゴリカル Web グラフ（有向レイアウト）による解釈を試みると、メリットには4つの側面があること、伝統は、歴史、活躍・社会的実績、知名度および同窓会・同窓生と同じ軸上に位置し、拡張・発展が別軸に存在することが分かった。

上述してきたことをまとめると、メリットとは、進展・発展と継承の次元および全体的と個人的の次元で表現される空間である。また、満足感はメリットの一部であり、コミュニケーションおよび教学態勢に関連し、満足感は進展・発展と継承の中間で個人的な空間において展開される概念である。また、メリットを中心に据えてみると、教員に関する軸、学生生活および友人に関する軸、講義内容に関する軸、知名度および仕事での利点に関する軸の4つの側面がある。伝統とは、学園の伝統と学生の伝統および組織的気風と個人的気風の次元で表現される空間であり、とくに個人的領域において校訓・伝統精神、教育理念などに基づいて伝統が展開される特性を示す。伝統を中心に据えてみると、歴史、活躍・社会的実績、知名度および同窓会・同窓生と同じ軸上に位置し、拡張・発展が別軸に存在した。

以上の結果を踏まえて、建学の精神に基づく自律的な私学教育の教育改善の方向性、在り方について考察してみたい。角山（2011）は「人が生涯を通じて形づくる役割や生き方」をキャリアと捉えている。Super（1996）は、ライフ・スペース（ライフ・キャリア・レインボー）において、キャリアを単なる職業だけではなく、個人が経験する多様な役割とその取り組み方によって構成されるものとしている。大学は高等教育機関である。職業訓練校とは異なるアカデミックかつ多角的な視点から、角山や Super が指摘する意味でのキャリア教育の在り方が求められているのではなかろうか。そして、そのキャリア教育の在り方および方向性を見定めるために、メリットと伝統は有用な示唆を与えてくれる。メリットと伝統は、建学の精神に基づいた自律的な私学教育の効果についての検討を可能にする。本研究で得られた結果は、当該大学において大切にすべき「教育の質保証」を担う中核的な概念あるいは独自性として解釈できる。

また、本研究では、当該大学・学園における1世紀余に渡る長い歴史における沿革の成果に焦点を当て、卒業生の観点から探求を試みたが、各種数量化分析からは除外されたものの大学変革への不満などネガティブな意見が、メリットで11件、伝統で38件あった。また、なし、分からない、記入なしなどの解析対象外となった回答者率は、メリット35.1%、伝統60.1%とかなり多かった。自由記述による回答は煩雑なため、それゆえの回答率の低さであるとも解釈可能であるが、伝統については大学教育の中で学生たちに十分に伝達・継承することができていない可能性も否めない。当該大学においては、メリット、伝統として抽出されたクラスターを中心にその独自性をさらに発展・充実させるとともに、ネガティブな意見についてはどのような方向性を持った教育を目指すのかを示すことで、その受け止め方が変容し、当該大学独自のより効果的な教育の実践へとつながるのではなかろうか。したがって、私立大学において、建学の精神に基づいた自律的な教育を効果的に実施し、社会の要請に応えるために、卒業生を対象に母校に対して、メリットおよび伝統をどのように感じているのかを問うことは非常に有用なことでありと考える。

[謝辞]：本研究は愛知淑徳大学同窓会の協力および平成22・23年度愛知淑徳大学共同研究助成を受けて行われた。ここに謝意を表す。

引用文献

- 大塚雄作(2004). 学習コミュニティ形成に向けての授業評価の課題——心理学者、大学教育への挑戦——溝上慎一・藤田哲也(編) ナカニシヤ出版 pp. 1-37.
- 角山剛 (2011). 産業・組織心理学の立場からみたキャリア形成, 心理学ワールド, 55, 5-8.
- Super, D. E., Savickas, M. L., & Super, C. M. (1996). The life-span, life-space approach to careers. In D. Brown, L. Brooks, & Associates (Eds.), *Career choice and development (3rd ed.)* San Francisco : Jossey-Bass. pp. 121-178.
- 榊原國城・安田恭子・若杉里実 (印刷中). 大学卒業生の教育内容満足感とキャリア発達, 愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇—
- 田中每美 (2011). 第1章 日本のFDの現在—なぜ、相互研修型FDなのか?, 京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表), FDの明日へ—大学教育のネットワークを創る— 東信堂, pp. 4-21.
- 文部科学省大学審議会 (1991). 大学設置基準等の大綱化と自己評価, http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199101/hpad199101_2_150.html (2010年11月30日検索).
- 文部科学省学校基本調査速報 (2011). 平成23年度学校基本調査の速報について (報道発表資料), http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2011/08/11/1309705_1_1.pdf (2012年1月7日検索)
- 安田恭子・若杉里実・榊原國城 (2007). 大学生の満足感と教育環境要因 コミュニティ心理学研究, 10(2), 175-185.
- 安田恭子・若杉里実・榊原國城 (2009). 大学生活への満足度に及ぼす教育・指導体制の影響 愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告, 17-26.
- 吉本圭一 (2007). 卒業生を通じた“教育の成果”の点検・評価方法の研究 大学評価・学位研究, 5, 77-107.